

[論文]

## 就職活動における満足度と親のかかわり方の関連 —名古屋地区の女子大生に対するアンケート調査結果から—

星野 冴香・寺田 盛紀

### はじめに

大学から職業へ移行していくにあたり、多くの学生は就職活動に取り組む。就職活動は、学生にとって卒業後の人生を決定する一大イベントである(荻谷・本田 2010, p.31)のだが、2011(平成 23)年 11 月に公表された文部科学省と厚生労働省の共同調査が示すように、2012 年 3 月の大学卒業予定者の就職内定率は 59.9% (平成 23 年 10 月 1 日現在) と前年度の 57.6 %より 2.3 %、増加しているが、依然として学生を取り巻く厳しい就職環境が続いていると言える(文部科学 [http](http://www.mext.go.jp))。この背景としては、長引く不況による企業・組織の採用意欲の減退や、4 年制大学卒業者の割合の増加、契約社員・派遣社員・パート社員というような雇用形態の多様化による正社員枠の減少など様々な要因が考えられる。

このような厳しい就職環境の中で、就職活動に取り組む当事者である学生だけでなく、親たちも就職活動に対して不安を抱き、関心が高まっていることがメディアで報じられている。学生の就職活動に積極的に関わる親が増えてきており、親と学生が一緒になって就職活動を乗り越えるという風潮が高まってきているという。ところがその反面、親の関わり方によっては、学生にとってマイナスに働いてしまうこともある。平尾(2004)は、学生にとって親の存在は大きく、親の意向を気にしてしまうため、自分が希望する会社に内定したものの、親の反対で断念する学生や、「やりたい仕事が無ければ卒業してゆっくり探せばいいじゃないか」という親の言葉を鵜呑みにし、就職活動に取り組むことさえしない学生が中にはいると指摘している。以上のように、学生にとっても、親にとっても不安で溢れた就職活動において、親が学生の就職活動過程や就職活動結果に何らかの影響を与えていることが推測される。

学生の職業選択や進路選択に対する親の影響に関しては、数多くの研究がなされてきた。ところが、就職活動を通して親が学生にどのような態度やコミュニケーションをとり、それが就職活動過程や就職活動結果に対する満足度に影響を与えるかについてはこれまで十分に研究されてきたとはいえない。また、学生の就職活動が有意義なものになるためには、親が学生とどのように関わっていくことが望まれるか検討することは社会的に意義があると考えられる。

そこで、本研究は、学生に対する親の態度やコミュニケーションに注目し、名古屋市地区の大学 4 年生女子を対象にアンケート調査を実施し、親の態度・コミュニケーションが女子大生の就職活動過程や就職予定先に対する満足度(以後、「就職活動に対する満足度」とする)にどのように影響を与えているのかを明らかにすることを目的とする。満足度に注目するのは、キャリア支援の効果や学生の就職活動においては、学生の主体的な態度こそがその成否を左右すると考えるからである。

## 1. 先行研究

近年における大学生の就職活動に対する親の影響に関する研究を概観する。

根本(2005)は、大学生を持つ両親の就職に関連する意識と行動の実態を調査し、対応する大学生の就職に関する調査データと対比させながら分析、考察している。その結果、両親と大学生の間の就職に関するコミュニケーション頻度は極めて高く、大学生の就職活動への両親の影響も強いことを明らかにしている。

牛尾(2005)は、親子間のコミュニケーションのあり方として「会話の頻度」、「就職活動状況の伝達頻度」、「親のサポート度」、「親からの影響度」の4項目と子どもの就職活動の成果(本人の感じる就職活動結果への満足感)との関係について分析している。その結果、「就職活動状況の伝達頻度」と「親からのサポート度」が高いほど就職活動結果の満足度も高いこと、親子間のコミュニケーションの在り方が、大学生の就職活動の展開に少なからぬ影響を与えていることを明らかにした。残念ながら、この研究において、就職活動過程に対する満足度については述べられていない。

上村(2005)は、民間企業への就職活動を行った文系学部4年生を対象として、学生の就職活動に対する親のアドバイスや支援の影響に関する調査研究を行い、親に就職活動状況を伝達する頻度が多いほど、学生の実際の就職活動における行動量が多いことを明らかにした。また、就職活動に対する親のサポートとして、「就職に対するアドバイス」、「相談相手の紹介」、「就職先候補の紹介」、「就職希望先への推薦」の4項目について自己評定をさせた結果、親から子へのアドバイスは就職行動自体の方向性が子の判断によって決定する際には有効な要素となり得るが、自己で判断する余地を減少させることにつながる支援に対しては、やや否定的な捉え方がなされると指摘した。

## 2. 調査の概要と方法

### 2-1 調査方法と期間

2011年10月から2011年11月のほぼ2ヶ月間にわたり、筆者の知人を介してランダムにアンケート調査参加者を募り、委託留め置き法によって行った。

### 2-2 対象者と方法

名古屋市地区の大学における就職活動を経験した4年生女子167名であり、回収率は134部(80.2%)であった。

### 2-3 アンケートの内容

アンケートの内容は以下の通りである。

問1 回答者の年齢、大学、学部、学科

問2 卒業後の進路

問3 就職活動・その他活動状況

(1)エントリーシートを送った数

(2)説明会への参加数

(3)OB・OG訪問で会った人数

(4)面接を受けた企業数

- (5)内定をもらった企業数
- (6)就職活動開始以前に経験したもの
- (7)就職活動開始以後に経験したもの
- (8)就職に関する相談相手
- (9)父親との就職に関する会話の頻度
- (10)母親との就職に関する会話の頻度
- (11)就職予定先に対する満足度
- (12)就職活動過程に対する満足度

問4 女子学生が認知する就職活動における親の態度・コミュニケーション

- (1) 就職活動における父親の態度・コミュニケーション認知尺度 (26項目)
- (2) 就職活動における母親の態度・コミュニケーション認知尺度 (26項目)

鹿内(2005)が「大学生の職業選択に及ぼす親の影響の強さ」で用いた 14 項目からなる「父(母)親の態度認知尺度」のそれぞれに、高橋(2009)が「女子青年における進路選択時の親子間コミュニケーションとアイデンティティとの関連」で用いた「進路選択における親子間コミュニケーション尺度」の女子学生が認知した親のコミュニケーションをとらえる 12 項目を組み合わせて新たな尺度を作成し、使用した。この新たな尺度を「就職活動における父(母)親の態度・コミュニケーション認知尺度」と命名し、それぞれの質問 26 項目に対し、「全く当てはまらない」から「非常にあてはまる」の 5 段階で回答を求めた。

以上の集計、および解析にあたっては、統計解析ソフト SPSS14.0 for Windows を使用した。

3. 調査の結果と分析

3-1 結果

3-1-1 回答者の属性

回答者の属性について、所属大学別(表 1)と学部(表 2)の内訳を示す。なお、欠損データを含んだ回答紙について、分析に必要な場合、記入項目を分析に含めた。

表 1 回答者の所属大学

| 大学  | 度数  | パーセント |
|-----|-----|-------|
| 国立A | 75  | 56.0  |
| 私立A | 29  | 21.6  |
| 私立B | 23  | 17.2  |
| 私立C | 7   | 5.2   |
| 合計  | 134 | 100.0 |

表 2 回答者の所属学部

| 学部          | 度数  | パーセント |
|-------------|-----|-------|
| 経済          | 29  | 21.6  |
| 教育          | 23  | 17.2  |
| 外国語         | 22  | 16.4  |
| 文           | 19  | 14.2  |
| ビジネス        | 14  | 10.4  |
| コミュニケーション   | 9   | 6.7   |
| 現代社会        | 6   | 4.5   |
| 国際コミュニケーション | 5   | 3.7   |
| 法           | 4   | 3.0   |
| 文化情報        | 1   | 0.7   |
| 経営          | 1   | 0.7   |
| 生活科         | 1   | 0.7   |
| 合計          | 134 | 100.0 |

### 3-1-2 就職活動に対する満足度

目的変数の1つである就職活動過程に対する満足度について、平均値が3.66とやや高い値を示していた(図1)。また、就職予定先に対する満足度については、問2「大学卒業後の進路」において「未定」と「その他」を選択した回答者を除いてあり、平均値が4.40と非常に高い値を示していた(図2)。以降の就職予定先に対する満足度に関する分析において「未定」と「その他」を選択した回答者を除くこととする。

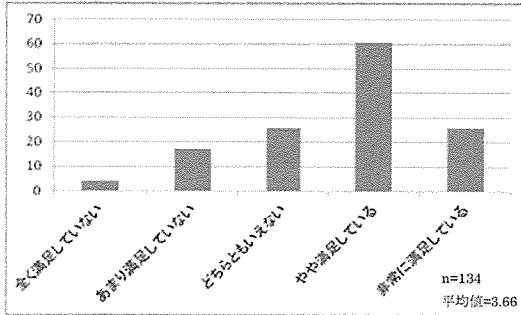


図1 就職活動過程に対する満足度(%)

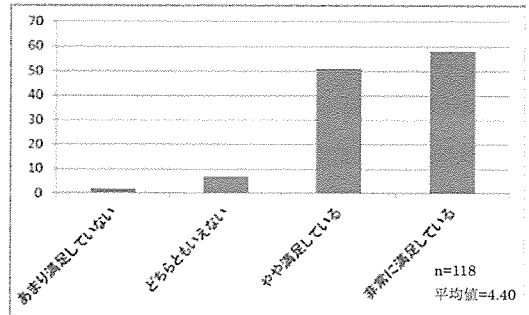


図2 就職予定先に対する満足度(%)

### 3-1-3 就職に関する親との会話の頻度

学生の満足度に影響すると考えられる親との会話について、就職活動を通して親と自身の就職に関する会話をどのくらいの頻度で話していたのかを尋ねた。その結果を、父親、母親別に図3、図4に示す。回答者全体が父親とあまり就職に関する会話をしておらず、父親よりも母親と活発に会話を交わしている傾向にあることが確認できた。

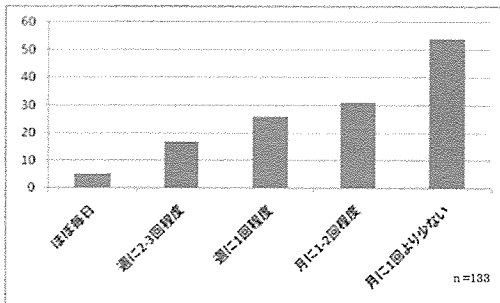


図3 父親との就職に関する会話の頻度(%)  
※無回答データ(n=1)を除く

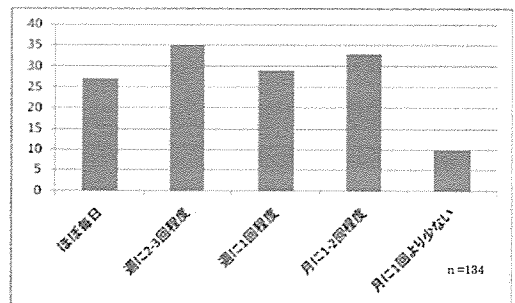


図4 母親との就職に関する会話の頻度(%)

## 3-2 親の態度に関する因子分析

つぎに、親の学生に対する態度やコミュニケーションの構造を探るために、26項目の質問への回答結果に対して父親・母親別に因子分析を行った。

### 3-2-1 就職活動における親の態度・コミュニケーション

就職活動における父親の態度・コミュニケーション認知尺度の因子分析

26項目に対して主因子法、プロマックス回転による因子分析を行った。固有値が6.90、2.66、2.29、1.48、1.32と続くように変化したことと、因子の解釈可能性から考慮し、4因子構造が妥当であると考えられる。また、このときに項目7「父親に進路の相談をしても『よくわからない』と言われる」、項目10「父親は私の将来の仕事や人生、就職活動について色々指図する」、項目13「父親は『将来こんな職業に就いてほしい』と言った」、項目14「父親は私の進路について何を考えているのかを口にしない」、項目21「父親は私が進路についてどんな意見を言っても『いいんじゃない』と言うだけである」については大きな負の負荷量を示したため、逆転処理をし、再度4因子を仮定して主因子法・Promax 回転による因子分析を行った。Promax 回転後の最終的な因子パターンと因子間相関を表3に示す。なお、回転前の4因子で26項目の全分散を説明する割合は51.2%であった。また、十分な因子負荷量(40以上)を示さなかった2項目を残余項目として、以降の分析から除外した。

その第1因子は11項目で構成されており、「就職活動についてアドバイスをくれる」や、「進路のことについてよく話し合う」など就職活動を応援し、子どもに対して理解や協力する姿勢がうかがえる項目が高い負荷量を示していた。そこで、「支援的態度」因子と命名した。

第2因子は6項目で構成されており、「自分の仕事の様子やできごとを家で話題にする」や、「仕事上のことで意見を求める」など父親の仕事に関する話題を子どもに持ち出す項目が高い負荷量を示していた。そこで、「仕事の話題」因子と命名した。

第3因子は「進路のことを任せてくれる」や、「最終的に決めた進路を応援してくれる」など子どもの意向を受け入れる項目が高い負荷量を示していた。そこで、「受容的態度」因子と命名した。

第4因子は3項目で構成されており、『「どうしてそうしたいの」と理由を聞いた』や、『進路について「あなたはこれに向いている」といった』など子どもに父親自身の意思をはっきりと示す項目が高い負荷量を示していた。そこで、「意思表示」因子と命名した。

各4因子の信頼性( $\alpha$ )係数については、「支援的態度」( $\alpha = 0.89$ )、「仕事の話題」( $\alpha = 0.66$ )、「受容的態度」( $\alpha = 0.63$ )、「意思表示」( $\alpha = 0.44$ )であった。「仕事の話題」の $\alpha$ がやや低かったが、項目間の相関を確認し、事後の分析尺度として採用することとした(表4)。「受容的態度」と「意思表示」については、十分な値が得られなかったため、以降の分析においては除外することとした。

#### 就職活動における母親の態度・コミュニケーション認知尺度の因子分析

同じく、26項目に対して主因子法、プロマックス回転による因子分析を行った。固有値が5.00、3.43、2.65、1.68、1.38と続くように変化したことと、因子の解釈可能性から考慮し、4因子構造が妥当であると考えられた。また、項目2「母親は私の今の状態について不満を持っている」のみ大きな負の負荷量を示したため、逆転処理をし、再度4因子を仮定して主因子法・Promax 回転による因子分析を行った。Promax 回転後の最終的な因子パターンと因子間相関を表5に示す。なお、回転前の4因子で26項目の全分散を説明する割合は49.1%であった。また、十分な因子負荷量を示さなかった3項目を残余項目として、以降の分析から除外した。

第1因子は8項目で構成されており、「私の進路のことを任せてくれる」や、「最終的に決めた進路を応援してくれる」など就職活動を応援したり、子どもに対して理解や協力する姿勢がうかがえたりする項目が高い負荷量を示していた。そこで、「支援的態度」因子と命名した。

第2因子は7項目で構成されており、「将来の仕事や人生、就職活動についていろいろ指図する」や、『「将来こんな職業についてほしい』といった』など子どもの人生や就職活動について指示をし

表3

就職活動における父親の態度・コミュニケーション認知尺度の因子分析結果(Promax回転後の因子パターン) (R:逆転項目)

| 項目  | I     | II    | III   | IV    | 共通性  | 平均値  | SD   |
|---|-------|-------|-------|-------|------|------|------|
| <b>支援的態度 (<math>\alpha=0.89</math>)</b>     |       |       |       |       |      |      |      |
| a08_父親は将来の仕事や人生、就職活動についてアドバイスをくれる           | 0.88  | -0.15 | -0.10 | -0.08 | 0.68 | 3.28 | 1.32 |
| a24_父親は私の就職試験について励ましてくれる                    | 0.75  | -0.12 | 0.14  | 0.18  | 0.56 | 3.57 | 1.25 |
| a22_私の将来のことについて父親とよく話し合う                    | 0.73  | 0.01  | -0.09 | 0.07  | 0.55 | 2.36 | 1.25 |
| a18_父親は私の進路について知ろうとしている                     | 0.73  | -0.04 | 0.08  | 0.06  | 0.52 | 3.64 | 1.16 |
| Ra07_父親に進路の相談をしても「よくわからない」と言われる             | 0.72  | -0.24 | 0.05  | 0.00  | 0.44 | 3.76 | 1.18 |
| a16_父親は私の進路について意見を言うときに、その理由もはっきり言った        | 0.72  | -0.07 | -0.05 | 0.23  | 0.55 | 3.17 | 1.29 |
| Ra14_父親は私の将来について何を考えているのかを口にしない             | 0.66  | -0.04 | -0.27 | 0.16  | 0.51 | 3.13 | 1.28 |
| a11_父親は将来の仕事や人生について考えるときの一つのモデルになっている       | 0.57  | 0.19  | 0.00  | -0.28 | 0.53 | 3.02 | 1.37 |
| a09_父親は私のやりたいことをちゃんと理解している                  | 0.56  | 0.19  | 0.27  | -0.11 | 0.56 | 3.31 | 1.18 |
| Ra21_父親は私が進路についてどんな意見を言っても「いいんじゃない」と言うだけである | 0.48  | -0.16 | -0.37 | -0.03 | 0.31 | 3.54 | 1.25 |
| a06_父親は父自身がどのように進路を決めてきたかについて経験を話した         | 0.48  | 0.19  | 0.03  | 0.15  | 0.38 | 2.74 | 1.48 |
| <b>仕事の話題 (<math>\alpha=0.66</math>)</b>     |       |       |       |       |      |      |      |
| a17_父親は自分の仕事の様子やできごとを家で話題にする                | -0.06 | 0.77  | 0.02  | 0.10  | 0.55 | 2.31 | 1.45 |
| a19_父親が仕事をしている姿を見る機会がある                     | -0.18 | 0.53  | -0.02 | 0.01  | 0.23 | 2.31 | 1.45 |
| a26_父親は仕事上のことであなたに意見を求める                    | -0.01 | 0.50  | -0.10 | -0.04 | 0.26 | 1.45 | 0.87 |
| a23_父親は仕事での不満を家で言う                          | -0.13 | 0.48  | 0.01  | 0.18  | 0.22 | 1.96 | 1.12 |
| a04_父親がどのような仕事をしているのか知っている                  | -0.05 | 0.42  | 0.19  | 0.08  | 0.20 | 4.40 | 0.74 |
| a12_将来の職業や生き方について、父親の期待を強く感じる               | 0.27  | 0.41  | -0.17 | 0.13  | 0.38 | 2.69 | 1.19 |
| <b>受容的態度 (<math>\alpha=0.63</math>)</b>     |       |       |       |       |      |      |      |
| a03_父親は私の進路のことを私に任せてくれる                     | 0.05  | 0.07  | 0.75  | 0.05  | 0.56 | 4.38 | 0.88 |
| Ra10_父親は私の将来の仕事や人生、就職活動についていろいろ指図する         | -0.33 | -0.03 | 0.62  | -0.01 | 0.47 | 4.09 | 1.11 |
| a05_父親は最終的に私が決めた進路を応援してくれる                  | 0.48  | -0.02 | 0.54  | 0.12  | 0.53 | 4.60 | 0.73 |
| Ra13_父親は「将来こんな職業に就いてほしい」といった                | 0.02  | -0.19 | 0.48  | -0.25 | 0.37 | 4.09 | 1.27 |
| <b>意思表示 (<math>\alpha=0.44</math>)</b>      |       |       |       |       |      |      |      |
| a25_父親は「どうしてそうしたいの」と私に理由を聞いた                | 0.38  | 0.06  | 0.04  | 0.50  | 0.42 | 2.53 | 1.25 |
| a20_父親は私の進路について「あなたはこれに向いている」といった           | 0.19  | 0.22  | 0.00  | 0.45  | 0.33 | 2.44 | 1.36 |
| a02_父親は私の今の状態について不満を持っている                   | -0.32 | -0.04 | -0.25 | 0.42  | 0.40 | 2.04 | 1.06 |
| <b>残余項目</b>                                 |       |       |       |       |      |      |      |
| a15_父親は自分の仕事にやりがいを感じていると思う                  | 0.32  | 0.30  | -0.11 | -0.21 | 0.31 | 3.91 | 0.97 |
| a01_仕事をしている父親を尊敬できる                         | 0.37  | 0.20  | -0.07 | -0.13 | 0.24 | 4.45 | 0.75 |
| 因子間相関                                       |       |       |       |       |      |      |      |
|   | I     | II    | III   | IV    |      |      |      |
| I   | —     | 0.42  | 0.07  | 0.04  |      |      |      |
| II  |       | —     | 0.04  | -0.04 |      |      |      |
| III   |       |       | —     | -0.21 |      |      |      |
| IV  |       |       |       | —     |      |      |      |

表4

「仕事の話題」因子の項目間相関

|                               | a17_父親は自分の仕事の様子やできごとを家で話題にする | a19_父親が仕事をしている姿を見る機会がある | a26_父親は仕事上のことであなたに意見を求める | a23_父親は仕事での不満を家で言う | a04_父親がどのような仕事をしているのか知っている | a12_将来の職業や生き方について、父親の期待を強く感じる |
|-------------------------------|------------------------------|-------------------------|--------------------------|--------------------|----------------------------|-------------------------------|
| a17_父親は自分の仕事の様子やできごとを家で話題にする  | —                            | 0.38                    | 0.38                     | 0.36               | 0.26                       | 0.34                          |
| a19_父親が仕事をしている姿を見る機会がある       |                              | —                       | 0.21                     | 0.10               | 0.30                       | 0.18                          |
| a26_父親は仕事上のことであなたに意見を求める      |                              |                         | —                        | 0.19               | 0.20                       | 0.34                          |
| a23_父親は仕事での不満を家で言う            |                              |                         |                          | —                  | 0.02                       | 0.18                          |
| a04_父親がどのような仕事をしているのか知っている    |                              |                         |                          |                    | —                          | 0.18                          |
| a12_将来の職業や生き方について、父親の期待を強く感じる |                              |                         |                          |                    |                            | —                             |

表 5  
就職活動における母親の態度・コミュニケーション認知尺度の因子分析結果 (Promax回転後の因子パターン) (R: 逆転項目)

| 項目   | I     | II    | III   | IV    | 共通性  | 平均値  | SD   |
|--|-------|-------|-------|-------|------|------|------|
| <b>支援的態度 (<math>\alpha=0.89</math>)</b>    |       |       |       |       |      |      |      |
| b03_母親は私の進路のことを私に任せてくれる                    | 0.75  | -0.26 | -0.02 | 0.10  | 0.54 | 4.25 | 0.98 |
| b05_母親は最終的に私が決めた進路を応援してくれる                 | 0.72  | -0.10 | 0.02  | 0.06  | 0.49 | 4.66 | 0.77 |
| b24_母親は私の就職試験について励ましてくれる                   | 0.65  | 0.09  | -0.15 | 0.19  | 0.38 | 4.20 | 1.03 |
| Rb02_母親は私の今の状態について不満を持っている                 | 0.56  | -0.15 | -0.05 | -0.06 | 0.30 | 4.07 | 1.03 |
| b09_母親は私のやりたいことをちゃんと理解している                 | 0.55  | 0.01  | 0.15  | -0.22 | 0.49 | 3.76 | 1.07 |
| b11_母親は将来の仕事や人生について考えるときの一つのモデルになっている      | 0.50  | 0.30  | 0.20  | 0.27  | 0.47 | 3.22 | 1.31 |
| b08_母親は将来の仕事や人生、就職活動についてアドバイスをくれる          | 0.45  | 0.41  | -0.08 | -0.21 | 0.56 | 3.50 | 1.11 |
| b18_母親は私の進路について知ろうとしている                    | 0.38  | 0.18  | 0.00  | -0.25 | 0.34 | 4.31 | 0.88 |
| <b>指示的態度 (<math>\alpha=0.75</math>)</b>    |       |       |       |       |      |      |      |
| b10_母親は私の将来の仕事や人生、就職活動についていろいろ指図する         | -0.46 | 0.68  | -0.04 | -0.06 | 0.58 | 2.48 | 1.40 |
| b13_母親は「将来こんな職業に就いてほしい」といった                | -0.30 | 0.66  | 0.02  | 0.12  | 0.43 | 2.55 | 1.34 |
| b12_将来の職業や生き方について、母親の期待を強く感じる              | -0.09 | 0.60  | 0.03  | 0.20  | 0.32 | 3.04 | 1.19 |
| b20_母親は私の進路について「あなたはこれに向いている」といった          | 0.04  | 0.54  | -0.15 | -0.10 | 0.35 | 3.11 | 1.23 |
| b16_母親は私の進路について意見を言うときに、その理由もはっきり言った       | 0.21  | 0.52  | 0.10  | -0.14 | 0.48 | 3.37 | 1.14 |
| b25_母親は「どうしてそうしたいの」と私に理由を聞いた               | 0.06  | 0.50  | -0.06 | -0.15 | 0.34 | 2.96 | 1.18 |
| b22_私の将来のことについて母親とよく話し合う                   | 0.39  | 0.42  | 0.01  | -0.06 | 0.42 | 3.74 | 1.19 |
| <b>仕事の話 (<math>\alpha=0.76</math>)</b>     |       |       |       |       |      |      |      |
| b17_母親は自分の仕事の様子やできごとを家で話題にする               | -0.10 | -0.04 | 0.79  | -0.24 | 0.60 | 3.71 | 1.23 |
| b04_母親がどのような仕事をしているのか知っている                 | -0.11 | -0.10 | 0.78  | -0.03 | 0.55 | 4.40 | 0.92 |
| b01_仕事をしている母親を尊敬できる                        | 0.08  | -0.08 | 0.65  | 0.07  | 0.46 | 3.93 | 1.08 |
| b15_母親は自分の仕事にやりがいを感じていると思う                 | 0.14  | 0.03  | 0.53  | 0.10  | 0.36 | 3.33 | 1.11 |
| b23_母親は仕事での不満を家で言う                         | -0.17 | 0.04  | 0.49  | -0.05 | 0.22 | 3.00 | 1.41 |
| <b>議論の抑制 (<math>\alpha=0.60</math>)</b>    |       |       |       |       |      |      |      |
| b21_母親は私が進路についてどんな意見を言っても「いいんじゃない」と言うだけである | 0.11  | 0.03  | -0.08 | 0.76  | 0.53 | 2.30 | 1.26 |
| b07_母親に進路の相談をしても「よくわからない」と言われる             | -0.34 | 0.09  | 0.10  | 0.61  | 0.54 | 2.63 | 1.35 |
| b14_母親は私の将来について何を考えているのかを口にしない             | 0.26  | -0.20 | -0.05 | 0.43  | 0.28 | 2.26 | 1.13 |
| <b>残余項目</b>                                |       |       |       |       |      |      |      |
| b19_母親が仕事をしている姿を見る機会がある                    | 0.16  | 0.08  | 0.25  | 0.29  | 0.18 | 2.75 | 1.54 |
| b06_母親は母自身がどのように進路を決めてきたかについて経験を話した        | 0.15  | 0.33  | 0.14  | 0.03  | 0.19 | 3.30 | 1.43 |
| b26_母親は仕事上のことであなたに意見を求める                   | 0.08  | 0.21  | 0.26  | 0.11  | 0.15 | 2.11 | 1.19 |
| 因子間相関                                      |       |       |       |       |      |      |      |
|  | I     | II    | III   | IV    |      |      |      |
| I  | —     | 0.19  | 0.31  | -0.23 |      |      |      |
| II   |       | —     | 0.15  | -0.36 |      |      |      |
| III  |       |       | —     | 0.05  |      |      |      |
| IV   |       |       |       | —     |      |      |      |

たり、母親自身の願望を伝えたりする項目が高い負荷量を示していた。そこで、「指示的態度」因子と命名した。

第 3 因子は「自分の仕事の様子やできごとを家で話題にする」や、「どのような仕事をしているのか知っている」など母親の仕事に関する話題を子どもに持ち出す項目が高い負荷量を示していた。そこで、「仕事の話」因子と命名した。

第 4 因子は 3 項目で構成されており、『進路についてどんな意見を言っても「いいんじゃない」と言うだけである』や、『進路の相談をしても「よくわからない」と言われる』など子どもの進路につ

いて関心を示さず、話し合おうとしないことを示す項目が高い負荷量を示していた。そこで、「議論の抑制」因子と命名した。

各4因子の $\alpha$ 係数については、「支援的態度」(= 0.89)、「指示的態度」(= 0.75)、「仕事の話題」(= 0.76)、「議論の抑制」( $\alpha = 0.60$ )であった。「議論の抑制」以外については十分な値を得られた。ただし、「仕事の話題」については、項目23の「母親は仕事のことで不満を家で言う」が項目間相関において一部十分な相関が見られなかったこと、削除した場合の $\alpha$ 係数が0.78で、現状の0.75より $\alpha$ 係数が高くなり、信頼性が高くなることが分かったので、以降の分析より項目23を分析対象項目から除去することにした。

### 3-2-2 就職活動に対する満足度への親の影響

#### 親との会話頻度との関連

父親、母親との就職活動に関する会話頻度について「ほぼ毎日」を「高頻度」グループ、「週に2-3回程度」、「週に1回程度」と「月に1-2回程度」を「中頻度」グループ、「月に1回より少ない」を「低頻度」グループとして3つのグループを分けた。しかし、父親との会話頻度においては、「ほぼ毎日」を回答した者が5%にも満たなかったため、「中頻度」グループと「低頻度」グループの2分類間の比較分析に限定した。

父親との会話頻度による就職活動に対する満足度の差を検討するために、 $t$ 検定を行った。その結果を表6に示す。就職活動過程に対する満足度( $t(99.21)=2.82, p<.01$ )について、「低頻度」グループよりも「中頻度」グループのほうが有意に高い得点を示していた。一方、就職予定先に対する満足度については、父親との会話頻度の得点差は有意ではなかった( $t(112)=0.39, n.s.$ )。

また、母親との会話頻度による就職活動に対する満足度の差を検討するために、3グループ間の一要因の分散分析を行った。その結果を表7に示す。就職活動過程に対する満足度( $F(2.131)=1.082, n.s.$ )、就職予定先に対する満足度( $F(2.115)=0.911, n.s.$ )のいずれにおいてもグループ間の得点差は有意ではなかった。

表6 父親との会話頻度別平均値とSD, および $t$ 検定の結果

|           | 低頻度  |      | 中頻度  |      | t値    |
|-----------|------|------|------|------|-------|
|           | 平均値  | SD   | 平均値  | SD   |       |
| 就職活動過程満足度 | 3.39 | 1.11 | 3.91 | 0.89 | 2.82* |
| 就職予定先満足度  | 4.37 | 0.76 | 4.42 | 0.63 | 0.39  |

\* $p<.05$

表7 母親との会話頻度別平均値とSD, およびの分散分析の結果

|           | 低頻度  |      | 中頻度  |      | 高頻度  |      | F値   |
|-----------|------|------|------|------|------|------|------|
|           | 平均値  | SD   | 平均値  | SD   | 平均値  | SD   |      |
| 就職活動過程満足度 | 3.67 | 1.11 | 3.70 | 1.00 | 3.20 | 1.03 | 1.08 |
| 就職予定先満足度  | 4.50 | 0.72 | 4.40 | 0.67 | 4.13 | 0.68 | 0.91 |

#### 親の態度・コミュニケーションとの関連

つぎに、前述の因子分析の結果から得られた尺度が学生の満足度にどのように作用しているのかを検討する。

就職活動における親の態度・コミュニケーション認知尺度の下位尺度と就職活動に対する満足度との相関を父親、母親別に表8、表9に示す。



父親については、「支援的態度」が就職活動過程に対する満足度、就職予定先に対する満足度とのいずれにおいても正の有意な相関が見られた。それに対し、「仕事の話題」は、就職活動過程に対する満足度とは無相関であり、就職予定先に対する満足度との正の有意な相関が見られた。

また、母親については、「支援的態度」が就職活動過程に対する満足度、就職予定先に対する満足度とのいずれにおいても正の有意な相関が見られた。それに対し、「指示的態度」と「仕事の話題」は就職活動過程に対する満足度、就職予定先に対する満足度とのいずれにおいても無相関であった。

表 8 父親に関する

| 下位尺度と就職活動に対する満足度の相関 |           |            |
|---------------------|-----------|------------|
|                     | 就職活動過程満足度 | 就職活動予定先満足度 |
| 支援的態度               | 0.31***   | 0.20*      |
| 仕事の話題               | 0.05      | 0.16*      |
| *p<.05,***p<.001    |           |            |

表 9 母親に関する

| 下位尺度と就職活動に対する満足度の相関 |           |            |
|---------------------|-----------|------------|
|                     | 就職活動過程満足度 | 就職活動予定先満足度 |
| 支援的態度               | 0.31*     | 0.20*      |
| 指示的態度               | 0.07      | 0.01       |
| 仕事の話題               | -0.07     | -0.13      |
| *p<.05              |           |            |

### 親の態度・コミュニケーションが与える影響

つぎに、親の態度・コミュニケーション認知尺度の下位尺度が就職活動に対する満足度に与える影響を検討するために、父親(2 変数)、母親(3 変数)別に重回帰分析を行った。その結果を表 10、表 11 に示す。

表 10 重回帰分析結果

|                   | 就職活動過程満足度 | 就職予定先満足度 |
|-------------------|-----------|----------|
|                   | $\beta$   | $\beta$  |
| 支援的態度             | 0.32***   | 0.16     |
| 仕事の話題             | -0.03     | 0.12     |
| R2                | 0.10**    | 0.05     |
| **p<.01,***p<.001 |           |          |
| $\beta$ : 標準偏回帰係数 |           |          |

表 11 重回帰分析結果

|                          | 就職活動過程満足度 | 就職予定先満足度 |
|--------------------------|-----------|----------|
|                          | $\beta$   | $\beta$  |
| 支援的態度                    | 0.36***   | 0.26**   |
| 指示的態度                    | 0.12      | -0.21    |
| 仕事の話題                    | -0.17     | -0.19    |
| R2                       | 0.13***   | 0.08*    |
| *p<.05,**p<.01,***p<.001 |           |          |
| $\beta$ : 標準偏回帰係数        |           |          |

父親については、「支援的態度」から「就職活動過程満足度」に対する正の標準偏回帰係数が有意であったが、「仕事の話題」から「就職活動過程満足度」に対する標準偏回帰係数は有意ではなかった。その一方で、「就職予定先満足度」に対しては「支援的態度」も「仕事の話題」も標準偏回帰係数が有意ではなかった。

母親については、「支援的態度」から「就職活動過程満足度」、「就職予定先満足度」に対する正の標準偏回帰係数が有意であった。その一方で、「指示的態度」、「仕事の話題」は、「就職活動過程満足度」と「就職予定先満足度」のいずれに対する標準偏回帰係数も有意ではなかった。

#### 4 考察

##### 就職活動における親の態度・コミュニケーション態度認知尺度の因子分析結果から

就職活動を通じた親の態度・コミュニケーションについて、先行研究において使用された2つの尺度を組み合わせた新たな尺度によって、より多角的にとらえることを試みた。

この新たな尺度による因子分析の結果、父親、母親とでは、「支援的態度」、「仕事の話題」の2つの共通の因子が抽出されたが、父親においては、「受容的態度」、「意思表示」が抽出され、母親においては「指示的態度」と「議論の抑制」が抽出された。鹿内(2005)や高橋(2009)の因子分析においては、父親と母親から全く同じ因子が抽出されたが、本研究では父親と母親とでは異なる因子も抽出されたことから、就職活動を通して、回答者に対する態度やコミュニケーションが母親と父親との間で異なる傾向にあることが分かった。具体的には、父親と母親との因子の比較から、どちらかといえば母親の方が子どもに対して就職について指図したり、無関心な態度をとっていたりする傾向にあることが推測された。これは、鹿内(2010)が言うように、母親と子どもとの間のコミュニケーションは父親よりも多いため、母親の抑制的な態度は子どもに伝わりやすいことによるものと思われる。ただし、信頼性の検討から、父親の「受容的態度」と「意思表示」、母親の「議論の抑制」については十分な $\alpha$ を示さなかったため、これらの因子は偶然性があったと考えられることに注意したい。

つぎに、信頼性の検討の結果、十分な $\alpha$ を示した父親の「支援的態度」、「仕事の話題」、母親の「支援的態度」、「指示的態度」、「仕事の話題」についてより深く検討する。父親、母親ともに、「支援的態度」下位尺度得点が一番高かったことに着目すると、回答者の両親は、総じて子どもの就職活動に対して協力的であり、子どもの就職活動を応援したり、励ましたりする傾向にあるといえる。冒頭にも述べたように、昨今、就職状況が厳しく、その厳しさを子どもの就職活動を見ていて肌で感じ取れることや、さまざまなメディアにおいて親の協力の必要性が叫ばれていることなどが「支援的態度」下位尺度得点の高さにつながったのではないと思われる。他方で、母親の「指示的態度」下位尺度得点について、「支援的態度」下位尺度得点に次いで高いことから、自身の希望・理想を何らかの方法で子どもに押し付ける傾向にあるといえる。

##### 就職活動に対する満足度への親の影響

まず、父親、母親別に会話頻度によって就職活動に対する満足度に差が見られるかどうかを、図3と図4の選択肢をグルーピング(「ほぼ毎日」を高頻度、「週に2, 3回」「週に1回」「月に1, 2回」を中頻度、「月に1回より少ない」を低頻度と)し分析する。父親については、回答の分散が悪く、高頻度が数名しかおらず、中頻度と低頻度との間だけの比較( $t$ 検定)を行った。母親については分散もよいので、3グループ間の一要因の分散分析を行った。その結果、父親においては、会話頻度による有意差が認められ、会話の頻度が低いよりも中程度のほうが就職活動過程に対する満足度が高くなる傾向にあるということが明らかになった。就職予定先に対する満足度については、父親との会話頻度によって満足度に差がでるとは言い切ることができないことがわかった。一方、母親においては、就職活動過程に対する満足度と就職予定先に対する満足度のいずれについても会話頻度による有意差が

認められなかったため、頻度ではなく、会話の内容に起因することが推測される。

また、回答者が認知する親の態度・コミュニケーションと就職活動に対する満足度との関連について検討するために、親の態度・コミュニケーション下位尺度と就職活動に対する満足度との相関関係を明らかにし、次いで重回帰分析を行うことにより、親の態度・コミュニケーション下位尺度が就職活動に対する満足度に影響を与えているのかを見た。結果から、父親については、「支援的態度」が就職活動過程および就職予定先に対する満足度との有意な正の相関が見られたが、影響を与えていることが認められたのは就職活動過程に対する満足度のみで正の影響を与えていることが明らかとなった。ただし、今回重回帰分析に投入した変数は少ないこともあり、回帰係数  $R^2$  が 0.10 という非常に低い数値を示したため、モデル全体の説明力に欠けてしまうことに注意したい。「仕事の話題」は、就職予定先満足度との有意な正の相関が見られたが、就職活動に対する満足度への影響については認められなかった。一方、母親については、「支援的態度」が就職活動過程および就職予定先に対する満足度との有意な正の相関が見られ、影響を与えていることも認められた。ただし、こちらも  $R^2$  が 0.13、0.08 という非常に低い数値を示したため、モデル全体の説明力に欠けてしまうことに注意したい。「指示的態度」は、いずれの満足度においても、有意な相関が見られなかったため、必ずしも母親の希望や理想の押し付けと就職活動に対する満足度との間には関係性があると言い切ることができない、と言える。

#### おわりに

本研究では、親が学生の職業選択や就職活動に影響を与えているのではないかと仮定し、名古屋市地区の大学の就職活動を経験した女子学生を対象としたアンケート調査によって、就職活動における親の態度・コミュニケーションが就職活動に対する満足度にどのような影響を及ぼしているのかを中心に明らかにしようとした。以下に本研究で明らかになったことについて述べる。

就職活動に対する満足度に親の態度やコミュニケーションが影響を及ぼしているのかどうかについて、女子学生と父親との会話の頻度が低頻度よりも中頻度であることと、父親、母親の「支援的態度」が就職活動過程に対する満足度を高める傾向にあることが確認できた。就職活動過程においてうまくいかないことがあっても、親から理解しようとする姿勢が感じられたり、就職試験について励ましてくれたりすると満足度が高くなりやすい。

母親との会話頻度が就職活動に対する満足度に影響を及ぼさなかったことについては、おそらく会話の内容によると推察される。母親の態度・コミュニケーション尺度の因子分析によって「指示的態度」が抽出されたことにより、たとえ頻繁に会話をしていても、会話内容に子どもに対して指図したり、意見を押し付けたりするようなものが含まれていたのではないかと思われる。また、就職予定先に対する満足度においては、父親の「仕事の話題」とわずかな正の相関を示し、母親の「支援的態度」が満足度を高める傾向にあることが確認できた。とりわけ、母親が「支援的態度」であると、就職活動過程においても、就職予定先においても満足度が高くなる傾向にあるということが明らかになったため、母親の「支援的態度」の重要性を示唆することができる。

しかし、だからといって、親が意見を押し付けたり、希望を伝えたりする「指示的態度」が満足度にマイナスの影響を与えるとは限らないことが明らかになった。この結果は社会で一般的に指摘されている内容とは異なっており大変興味深い点であった。

続いて、本研究の反省点と残された課題について述べる。

第1に、データの偏りについてである。回答者が筆者の所属大学の女子学生に偏ってしまったことから、さまざまな質問に対して回答に偏りがみられることがあったと思われる。一般的な大学生の親の態度・コミュニケーションや就職活動に対する満足度を明らかにするためにも、今後、調査の範囲を拡大して、さまざまな大学生を対象として調査を行う必要があるだろう。

第2に親を父親と母親だけの2グループに分けることの問題である。本研究では、父親と母親とのタイプを組み合わせたパターンを含めた、女子学生の就職活動に対する満足度への影響を把握することはできなかった。

第3に、満足度を与える影響要因(変数)として親の態度に限定したことである。それ以外の社会的要因、教育的要因、諸経験なども加えて分析すべきであろうと考える。

## 参考文献

- 井上知子(1997)伊藤裕子氏「女子青年の職歴選択と父母の養育態度」について 青年心理学研究, 8, 49-53
- 上村和申(2004)大学生の就職活動における両親の影響に関する一考察 政治学研究論集, 21, 35-54
- 牛尾 奈緒美(2005)大学生の就職活動と親子関係:ジェンダーを視点として 大学生の就職行動に関する調査研究 明治大学社会科学研究所紀要, 44-1号, 103-116-
- 荻谷剛彦・本田由紀(2010)大卒就職の社会学—データから見る変化— 東京大学出版会
- 北原佳代・佐々木美樹・岡部恵子(2005)職業選択に対する学生の考え方と親への相談状況との関係 紀要, 33, 121-139
- 佐山公一(2009)大学生の職業選択に及ぼす親の影響の強さ 商学研究, 60-1, 45-69
- 鹿内啓子(2005)大学生の職業選択に関わる親の態度認知と職業人イメージの要因 北星学園大学文学部北星論集, 42-2, 69-88
- 鹿内啓子(2010)大学生における親の就職への態度および親との関係と職業意識との関連 北星学園大学文学部北星論集, 47-2, 1-12
- 高橋彩(2008)女子青年における進路選択時の親子間コミュニケーションとアイデンティティとの関連—大学進学時と就職活動期の比較— 総合政策研究 11-1, 27-42
- 高橋彩(2008)大学生における進路選択時の親子間コミュニケーションとアイデンティティとの関連—大学進学時と就職活動期の比較— 総合政策研究, 11-1, 27-42
- 根本孝(2005)大学生の就職活動をめぐる親子の連携関係 明治大学社会科学研究所紀要, 44-1, 92-102
- 平尾元彦(2004)大学生の就職活動に関する親の意識—山口大学3年生の保護者アンケート調査— 大学教育 創刊号, 1, 103-113
- 松田由希子・前田健一(2007)大学生の職業選択未関与におよぼす自己効力感と親や友人からのサポートの影響 広島大学心理学研究, 7, 147-158
- 文部科学省 [http://www.mext.go.jp/b\\_menu/houdou/23/11/1313317.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/23/11/1313317.htm)

Relationship between the Satisfactory Affection of the Job Hunting Activity and Parents' Communication Behaviors for University Students : Basing on the Results of a Questionnaire Survey to Female Students in Nagoya Region .

Saeka HOSHINO, Moriki TERADA

Abstract

This study aims to clarify the relationship between the satisfactory affection of the job hunting activity and parents' communication behaviors for university students through some analyses concerning results of a questionnaire survey to 167 female students in Nagoya region. Questionnaire is chiefly constructed of the part of the affection quantities (2 items), their job hunting activities (10 items), communication behaviors of fathers (26 items) and same behavior of mothers (26items). Collecting rate was 67 %.

First, the satisfactory affection of their job hunting process was relatively higher than our prospects and 64.9 % of all students answered as "satisfied rather" and "satisfied strongly". Concerning satisfactory affection of the results of job hunting activity (to affection to each employed company), it was also so high and the rate became 92.4 %.

Second, from the jointed factor analysis into 26 items of fathers' or mothers' behaviors by the method of oblique and *promax rotation of principal factors*, two common factors, such orientations as "supportive behavior orientation" and "talking about parents' jobs" were derived. But, on the one hand, from the factor analysis into fathers' answers, "receptive" and "talking about their opinion" were derived, and from the analysis into mothers' answers, "direct behavior" and "restrained behavior" were extracted on the other hand.

Third, from the results of the *t*-test and *F*-test, we can confirm the significance of the frequency of talking about students' jobs in the family, especially middle range, not so often and not few, is better to students activities.